

《演奏会報告》

(令和4年度)

2022年度 演奏活動報告

アンサンブル、トランペットの基礎練習会、 トランペット独奏のための作品研究

上田 仁

今年度は初の試みとして月曜日1限の時間を利用し、トランペット演奏の生命線となる、ウォーミングアップや基礎練習を門下を越えたグループで行い、基礎能力の向上を図った。金管楽器、とくにトランペットは圧力の強い息をアンブシュアと呼ばれる管楽器を吹くための口から発するため、口輪筋の不断の鍛錬が欠かせない。年間を通して効率の良い鍛錬法を教員と実践する事でトランペットパートの技術向上に貢献出来たと感じている。今年度の年間を通してトランペットや金管アンサンブルに取り組むために、個人研究費の大半を楽譜の購入に充てた。また2022年度は8回の試演会を行い、トランペット独奏作品やアンサンブル作品の実践研究も行った。

めいおんトランペットメイジャーズ 第一回試演会

中山颯太 トランペットソナタより第一楽章 P.Hindemith 小杉有香
西田宗正 トランペット協奏曲 F.J.Haydn 田本将也
安藤百華 スラヴ幻想曲 C.Hoehne 久保田初音
高柳亜緒衣 トランペット協奏曲 Artianian 久保田初音

2022年4月14日（木）18：30開演
名古屋音楽大学 C101教室

大学主催定期演奏会オーディションの予行演習として、4年生の中山が、オーケストラソリストのオーディションの予行演習として西田、高柳が演奏した。

第二回試演会

西田宗正 トランペット協奏曲 F.J. ハイドン 久保田初音
 高柳亜緒衣 ソナタ K. ピルス 築山茉以
 佐々木花恋 トランペット協奏曲 A. アルチュニアン 江野藍子
 上原陸 トランペット協奏曲 J.N. フンメル 江野藍子
 三宅結 ルスティークス E. ボッツァ 江野藍子
 福井穂奈美 コンサートピース第二番 V. ブラント 江野愛子
 櫻井佑治 スラヴ幻想曲 C. ヘーネ 江野藍子
 河村真和 ファンタジー C. サン＝サーンス 江野愛子
 安藤百華 レジェンド G. エネスコ 江野愛子
 杉本朋香 ヴェニスへの謝肉祭 J.B. アーバン 江野愛子
 高柳亜緒衣 トランペット協奏曲 A. アルチュニアン 江野藍子

2022年6月22日（水）18：30開演

名古屋音楽大学 C101教室

伴奏に江野藍子さんを招き本格的なトランペット独奏を経験した。7月末に行われる実技試験は無伴奏であるためにピアノ伴奏付きの楽曲に取り組み、アンサンブルを楽しんだ。

第三回試演会

加藤葉月 カンタベリー J.L. ホーゼイ
 長尾美冬 オリンパス D. コート
 櫻井佑治 ファンタジー M. アーノルド
 杉本朋香 ロマンズ K. ノバリー
 鈴木留風 60の練習曲より8番15番 C. コープラッシュ
 河村真和 サルタネッロ J. タリン
 畑野柊 ストリートシーン P. スパーク
 佐々木花恋 ストリートソング P. スネデコール
 上原陸 リリックピース G. パスクッチ
 三宅結 イントラダ O. ケッティング
 安藤百華 ポストカード A. プロゲ
 福井穂奈美 アティテュード T. ジョンソン

2022年7月20日（水）
 18：30開始
 名古屋音楽大学 C101教室

実技試験直前の試演会という事もあり、試験の予行演習としての参加が多かった。

第四回試演会
 秋のアンサンブル祭り

道化師のギャロップ カバレフスキー／中山颯太
 中山颯太・安藤百華・櫻井祐治・三宅結

パスオブディスカバリー E.モラレス
 西田宗正・上田じん・河村真和・三宅結・佐々木花恋

デュレンホルンパッセージ K.マッキー
 上田じん・安藤百華・三宅結・杉本朋香・佐々木花恋・西田宗正

2022年9月28日（水）
 18：30開始
 名古屋音楽大学 C101教室

編曲にも興味を持つことになる中山颯太の作品第一弾を演奏（今後ネクサス出版より出版予定）後半2曲は9月6日に行われたPETEN演奏会で演奏された曲。その演奏にシンパシーを感じ演奏。

第五回試演会

西田宗正 ソナタ P.ヒンデミット 市居宥香
 河村真和 トランペット協奏曲より第一楽章 O.バーメ 市居宥香
 杉本朋香 コンサートピース第2番 V.ブラント 川口真実
 櫻井祐治 ドミニコスカルラッティの主題による変奏曲 M.ビッチュ 岩田杏
 安藤百華・福井穂奈美 2本のトランペットの為の協奏曲 E.モラレス 渡邊羽麗

2022年12月13日（火）18：30開演

名古屋音楽大学 C101教室

西田は1月に行われる早坂門下発表会演奏曲を演奏。それ以外の者は1月実技試験の予行演習として試験曲を試演。安藤・福井はデュオに取り組んだ。

特別編

河村真和 トランペット協奏曲より第一楽章 O.ベーム 市居宥香
加藤葉月 モルソー デ コンクール A.シャイユー 伊井啓師
杉本朋香 コンサートピース第2番 V.ブラント 川口真実
鈴木留風 インメモリアム J.タリン 霜島響輝

金管アンサンブル

チチヌユーの風～7月8日・無礼なる歌曲・フレールジャック
シェヘラザードより第四楽章・クラークン

中山颯太・安藤百華・福井穂奈美・三宅結・吉田桃音・岩瀬優花・佐藤優・二宮梨緒
川辺ゆい・川口まな・平山紫悠・斎藤響太・水野莉沙

管楽器カラオケ大会

自由参加

2022年12月27日（火）13：00開演

DOホール

実技試験の準備と大編成アンサンブル、初見演奏能力強化のためカラオケ演奏を取り入れた。

第六回試演会

頑張ろう実技試験

福井穂奈美 ルスティークス E.ボツツァ 福井明日香

高柳亜緒衣 ソロ ド コンクール T.シャルリエ 築山茉以
 河邊快 マンハッタンより第一楽章 P.スパーク 佐藤天徳
 三宅結 フリアリアーナ E.ボツァ 山田美羽
 河村真和 トランペット協奏曲より第一楽章 O.ベーム 市居宥香
 西田宗正 ソナタ P.ヒンデミット 市居宥香
 上原陸 ソナタVIII A.コレルリ 久保田初音
 安藤百華 ルステークス E.ボツァ 久保田初音
 立岩優吏香 コンサートエチュード A.ゲディケ 神谷優華
 中山颯太 コンチェルティーノ A.ジョリヴェ 久保田初音
 6本のトランペットのための組曲 A.プロゲ
 上田じん・高柳亜緒衣・福井穂奈美・梶山由美・河村真和・西田宗正

2023年1月18日（水）18：00開始

名古屋音楽大学 C101教室

最大の人数になった第6回目の試演会は実技試験直前の準備と2月14日に予定されているアンサンブルコンサートの試演となった。

第六回試演会補講

頑張ろう実技試験

櫻井祐治 ドミニコスカラッティの主題による変奏曲 M.ビッチュ 岩田杏
 梶山由美 モルソー デ コンクール J.G.ペヌカン 小杉有香
 三好まりな イギリス組曲より1, 3, 5 R.フィッツジェラルド 渡邊将矢
 杉本朋香 コンサートピース第2番 V.ブラント 川口真実

2023年1月23日（月）19：00開演

A403教室

1月18日に参加できなかった学生さんへの補講試演会。

2022年度 演奏活動報告

大岡 訓子

1 執筆（単著）

第39回（2022年度）JPTAピアノ・オーディション課題曲誌上レッスン（JⅡ部門）
日本ピアノ教育連盟会報Klavier Post「第150巻」pp.12-18

日本ピアノ教育連盟オーディション課題曲について、誌上レッスンを行い、同会報（ピアノ指導者向け）に掲載された。

内容については、本学での授業「ピアノ指導法講座Ⅱ」にて題材にしている課題も多く、ジュニア世代育成での経験をもとに、譜例への書き込みと文章における誌上レッスンを行った。

2 演奏会

「第14回ピアノコンサート エクセレント」2022年9月3日（土）13：30開演
電気文化会館ザ・コンサートホール

F.ショパン ロンド ハ短調 op.1

毎年卒業生と共に演奏する演奏会を開催している。

ロンドop.1はハ短調で作曲されており、その主題はロンド形式で現れる。ホ長調、変イ長調、変ニ長調へと美しく音楽展開し、また嬰二短調、嬰ト短調に現れる情熱的な音楽内容も魅力的である。ショパンの初期の作品であり、演奏される機会の少ない作品と思われるが、希望のあるエネルギーを感じさせる展開部は豊かな音楽が語られていく作品である。

2022年度 演奏活動報告

佐藤 恵子

2022年5月27日（金） 16：45開場17：15開演

ザ・コンサートホール（電気文化会館）

愛知ロシア音楽研究会第13回演奏会

「今、お届けしたい音楽」

〈ピアノ二重奏〉

「組曲第二番」 op.17より

ラフマニノフ作曲

〈ロマンス〉〈タランテラ〉

1st. 松下寛子 2nd. 佐藤恵子

二台のピアノの為のコンツェルティノー

シヨスタコーヴィチ作曲

1st. 佐藤恵子 2nd. 松下寛子

〈伴奏〉 金原聡子（ソプラノ）

小島 op.14-2

ラフマニノフ作曲

友よ、私の言葉を信じるな op.14-7

ヴォカリーズ op.34-14

〈伴奏〉 川畑久子（ソプラノ）

「風刺（過去への憧憬）」 op.109より

シヨスタコーヴィチ作曲

No.1 批評家へ No.3 子孫 No.5 クロイチェル・ソナタ

2022年10月21日（金） 18：30開場19：00開演

ザ・コンサートホール（電気文化会館）

第21回寛聡子メゾ・ソプラノリサイタル

「ここは 素晴らしい」

〈伴奏〉

騒がしき舞踏会の中で

チャイコフスキー作曲

ただあこがれを知る者のみが

ジプシー娘の歌

夜

子守唄（詩：深尾須磨子）

中田喜直作曲

秋（詩：宮本正清）

お月さましか話し相手がいなかったら（詩：寺山修司） 遠藤雅夫作曲
 何でも値段をつける古道具屋のおじさんの話（詩：寺山修司）
 時は過ぎ行く（詩：寺山修司）

「イタリア歌曲集」より ヴォルフ作曲

私を紐でつかまえようなんて
 どんなに長いこと私は待ち望んでいたことでしょう
 私の恋人が家の前で歌っています

「スペイン歌曲集」より

私の巻き毛のかげに
 ここはすばらしい op.21-7 ラフマニノフ作曲
 我が子よ！おまえは華のように美しい op.8-2
 鶴 フレンケリ作曲

愛知ロシア音楽研究会の活動は、作品紹介の意義を持ち、ロシアのウクライナ侵攻の続いている今だからこそロシア音楽を演奏するべきとの思いで開催されました。ロシア音楽の好きな聴衆に恵まれ、二台ピアノの豊かな響きを、そして二人の声楽家の声の違いをラフマニノフとショスタコーヴィチのタイプの違う作品で楽しんで頂きました。また長い演奏活動の中、21回目のリサイタルと言う笥聰子氏との共演は、親しく今まで一緒に演奏を続けているだけに、音楽創りは楽しくもあり苦しくもありと言う、貴重な経験となり、若い方達とは違う演奏会になったのではと思います。

2022年度 研究活動報告

清水 皇樹

「ピアノ指導法講座」の充実のために、毎年研究活動をピアノ指導法研究として積み重ねて行っている。

私の担当するピアノコース、ピアノ演奏家コースでの実技面での指導の充実はもちろんのこと、学生が卒業した後、すぐにでも優れたピアノ指導者として仕事ができるように導くことも非常に大切であると日頃考えている。

カリキュラムの中の「ピアノ指導法講座」をより充実させるために、1年間かけていろんな年齢の生徒を継続的に指導、レッスンをを行い、その指導法研究の成果を12月末に、今回は伏見の電気文化会館ザ コンサートホールを借りて発表することとした。

私が指導法の大切さを痛感したのはモスクワ音楽院に留学中のことである。

ロシア人音楽家の世界的にレベルの高さはこの指導法の素晴らしさにあると思っている。

指導法のノウハウもあるが、指導法を充実させるためには何よりもその経験をなるべく多く積み重ねることだと考える。

私が指導している生徒は本学の学生も含めて40名ほどいる。

年齢的にも小学生から大学院生までと幅広い。

それを1年間の中で何回もレッスンを積み重ねることで毎回、発見や反省点が生まれる。

それを活かしながら生徒がどう成長できたか、私の指導は適切であったかどうかはその12月末の門下生演奏会で明らかになる。

私の「ピアノ指導法講座」の授業の中では、学生一人一人に数回の模擬レッスンをさせている。先生役、生徒役も学生が行う。時間的には15～20分のレッスンとし、終わった後、どうだったかを振り返るために先生役、生徒役の学生に意見を求めている。

また、聴いている他の学生にもそのレッスンの良かったところ、改善すべきところをそれぞれ意見を述べてもらっていて、それが一番勉強になっていると考える。

最後に私が全体的な講評を行うスタイルで授業を進めている。

その授業でいつも感じ、学生にも伝えていることであるが、ピアノ実技を指導する中で、ついつい教師側が一方的にこうなさい、ああなさいと言ってしまいがちであるが、どうしてそのようにしなくてはならないのかが十分に伝わっていない気がする。

そこを、何故そのようにしなくてはならないかを、いかに音楽的に生徒に伝えられるかだと思う。

例えば、何故ここにクレッシェンドと作曲家は書いたのか、何故作曲家はここにスフォルツァンドを書いたのか、何故ここで転調したのかをいかに自分の言葉で伝えられるか等。

そしてそれらを一方的に教師が言わず、まずは生徒に考えさせて自分の意見を言わせてみるのが大事だと感じている。

でも私自身が授業の中で教えるのに伝えるのに多くの経験による引き出しを持っていないわけではない。

そうしたことで40名程の生徒を1年間継続的に指導を重ねてきた。

一つの事を伝えるのに、いかに教師側が沢山の音楽的なイメージを持っている事の大切さを実感した。

ベートーヴェンなら彼の生きた時代の音楽史的な知識、ピアノ曲に限らず、交響曲や弦楽四重奏曲などにも精通してれば、生徒が音楽的に理解し納得するためにもそういった引き出しが沢山あれば、より伝えやすい。それが良い指導法に繋がると考える。

私は生徒にベートーヴェンのソナタを学ばせるのに今回、自分がいろんな交響曲や弦楽四重奏を聴いてみたりして研究を重ねてきた。

今年度は特に、古典派のソナタ等で明らかにそれぞれの作曲家が交響曲、弦楽四重奏曲を意識して作曲されたと感じることが多々あった。

和声的に縦の部分の響きのバランスの取り方など、ただソプラノを際立たせてとか、バスをもっと響かせてと言うだけでなく、弦楽四重奏を色々聴いてみることによってカルテットの響きならこういう響きだよ、と教師側が実際に弾いて見られるようになったことは私にとって収穫であった。

また、ハイドンはこんな響き、ベートーヴェンならこんな響きとやはり違うのだが、それはそれぞれの弦楽四重奏の響きを耳で知っていなければ、ピアノでもバランスの良い、作曲家のスタイルに合った美しい響きは出せないことも今回私自身が理解出来た。

生徒にも、いかに弦楽四重奏を聴くことが大切かをも理解させられることも私自身の実感として伝えられることが出来たと思っている。

古典派のソナタは、ソナチネも含め小学生でも学習する基本的な作品なので、今年度の

授業の中でもその弦楽四重奏的な響きの大切さは触れてくれたように思う。

授業やレッスン室でその響きが出せたと思っても、最終的には実際のコンサートホールで上手く響かせられなくてはならない。そのために年に一回はコンサートホールでの演奏の場が必要不可欠である。

生徒自身の1年間の成果でもあるが、私にとっての1年間のピアノ指導法研究の成果を確かめる場でもあると考える。

そして今回、実際に生徒の演奏を通して上手く指導出来たと実感する部分と、その古典派の響かせ方としてまだまだ課題の残る部分も感じる事が出来た。

私としては今回の反省を活かすためにも、様々な作曲家の弦楽四重奏曲により深く親しむことで今後のピアノ指導法研究に役立てていきたい。そして引き続きこの研究を深めていきたいと考えている。

来年度は特に古典派作品演奏、指導のために例えば、ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンの弦楽四重奏曲の演奏会にも積極的に出掛けて行きたい。

その中で今後のより良い深い音楽的解釈に基づくピアノ指導法に上手く繋がっていったらと考えている。

2022年度 演奏活動報告

高藤 摩紀

今年度は、コロナ禍の制約が少し緩和され、海外からアーティストを迎え、演奏会を開催することができた。

今年度行った演奏会の詳細を記します。

5月22日 リリオフレッシュコンサート ゲスト出演
Jean Francais作曲 Tema con Variazioni
Astor Piazzolla作曲 Le Grand Tango

共演 水村さおり（ピアノ）

共演の水村さおりさんとは、留学から帰って来てすぐからの友人で、フランス音楽を得意としていることから、初心に帰り学びたいと思い、フランス作品を演奏することとした。彼女のキラキラした、色彩豊かでフランスの温度感、湿度まで伝わってくる音色、小洒落た音楽を共有することができ、学びの多い機会となった。

8月26日 国際マリimbaフェスティバル Marimba Night
Rudiger Pawasser作曲 Sculpture in Wood
Ricardo Gallardo作曲 Café Jegog 他

8月27日 国際マリimbaフェスティバル Festival Main Concert
Ricardo Gallardo作曲 Saeta y Bulerias（世界初演）
Hector Infanzon作曲 El Devenir de la Noche
John Psathas作曲 Kyoto

共演 Katarzyna Myćka、Conrado Moya、Ricardo Gallardo

3年前から企画構想していた、国際マリimbaフェスティバル、2回コロナで延期になっていたが、ようやく開催できた。海外から熱いマリmbistを招いて2日に渡るコンサートは、主催していただいた長久手市文化の家のスタッフの皆さんの多大なご協力のおかげでインターナショナルでエキサイティングなものになった。コロナ禍で海外からゲストを招

聘することは実に大変で、ビザの取得のトラブルで Svet Stoyanov 氏は、残念ながら来日出来なかった。急遽、集まれたゲストでアンサンブルを演奏することになった。Katarzyna Myćka、Conrado Moya、Ricardo Gallardo の各氏は、演奏はもちろんのこと、人柄も素晴らしく温かくて、笑いの絶えない楽しい毎日を過ごさせてもらった。

27日のメインコンサートでは、私も一緒に4人で演奏した Infanzón の *El devenir de la Noche* は熱く繊細で、リハーサルも本番もこの上なく楽しいアンサンブルだった。Svet さんも一緒に5人で演奏する予定だった Psathas の *Kyoto* では、名古屋音楽大学4年、亀山佳音くんが見事に代役を務めた。

ゲストはアンサンブルの他にそれぞれ素晴らしいソロを披露してくださった。Katarzyna さんは Hatzis 作曲 *In the Fire of Conflict* を、ラップの音源とともに演奏、とてもパワフル且つ色彩豊かな演奏だった。Conrado さんはバッハのシャコンヌを魂込めた荘厳な演奏、Ricardo さんは J.P. Jones の *Macondo* をスティールパンと音源で演奏、一般的なスティールパンのノリのいいイメージではなく、ゆったりとした美しく繊細な表現で聴衆を惹きつけた。私は、Ricardo さんが今回、私のために書いてくださった *Saeta y Bulerías* を、Ricardo さんのカホンと共に世界初演した。厳粛な雰囲気気の *Saeta* と、フラメンコギターのような巧みなリズムと情熱的な *Bulerías* の2つの対照的なスタイルを持った素敵な曲だった。

メインコンサートの前日の26日には前夜祭「マリンバナイト」を開催した。Katarzyna さんと Conrado さんは2夜にわたってバッハのゴルトベルグ変奏曲全曲を、とても清らかで美しい音楽を奏でてくださった。

コロナ禍で海外との交流ができない日が続いていたところ、ゲストの皆さんの演奏をライブで聴けたことや、リハーサルを通じて様々な意見交換が出来たことは、かけがえのない機会となった。ゲストの皆さんの演奏は音色の作り方や、音楽表現、フレーズ感、和声感が特に素晴らしく、学ぶことがとても多い日々だった。

9月4日 Ricardo Gallardo Percussion Concert
 Ricardo Gallardo 作曲 *Saeta y Bulerias*
 Ricardo Gallardo 作曲 *Bamboo Song*
 Hector Infanzon 作曲 *El Devenir de la Noche*

本学客員教授の Ricardo Gallardo 氏が来日することができたため、名城公園キャンパスホールで打楽コース生全員が参加してコンサートを行った。Ricardo 先生のレパトリーを中心に、約1週間リハーサルをして、学生たちは英語でのレッスンを受けて、学び多い期間となった。学生たちは Ricardo 先生と共演をし、世界のトップランナーのアーティストとステージを共にする機会を得た。

2月23日 めいおん室内楽の夕べ
Anna Ignatowicz 作曲 Passacaglia

本学プリヴィレッジレッスン客員講師の境祥子先生と共演、ヴィブラフォンを演奏した。
境先生が長年拠点とされていた、ポーランドの作曲家の作品に取り組み、作曲者の意図、
ポーランド音楽の楽譜の解釈などの理解を深めることができた。

2022年度 演奏・研究活動報告

露木 薫

演奏活動

3月14日（月） Meion British Brass 第3回定期演奏会

青少年文化センター（アートピアホール）18：00開演

【趣旨】2016年春に同好会として発足した英国スタイルの金管バンド“Meion British Brass”の2021年度の活動の集大成として定期演奏会を開催し指揮を担当した。

【内容】 第1部

K.J. アルフォード：行進曲「ナイルの守り」

W. ハイムス：フリーゲルホルンのための小協奏曲

1. ロンドとブルレスカ
2. バラード
3. タランテラ

（フリーゲルホルン ソロ：上田じん）

小田実結子：思い出の街

P. スパーク：サン＝サーンス ヴァリエーションズ

第2部

P. グレアム：コサックの叫び

1. タタール人の行進
2. ジプシーの夢
3. コサックの炎舞
4. ドイルの嘆き
5. コサックの婚礼舞踏

J.V. ロースト：カンタベリー・コラール

J. ウィリアムズ：インディージョーンズ「魔宮の伝説」

【成果】世界的に人気が高く、定番と言えるP. グレアムやJ.V. ローストの作品やP. スパークの佳作に取り組み、金管合奏の魅力の一面を探求出来た。またフリーゲルホルンの為の珍しい作品を上田じん先生のソロで演奏する事が出来、一年間の活動の成果を示すことが出来た。

9月6日（火） ユーフォニアムのひびき

（露木門下 おとなのおさらい会）

スタジオ・フィオーリーレ 18：30開演

ユーフォニアム：露木薫、武田彩花、森内夕貴

ピアノ：久保田初音

【趣旨】コロナ禍でソロの演奏会の機会が減少した中、本番の感覚を取り戻したい2名（露

木・武田) とリヨン国立高等音楽院を卒業し帰国したばかりで演奏披露の機会が欲しかった森内の3人でジョイントのおさらい会を開催した。

【内容】

Trio (森内、露木、武田)

R. ハーグマン：紋章ファンファーレ

Eup&Piano (露木&久保田)

G. ドウティ：《大きな古時計》主題と変奏曲

山田耕筰 (編曲 T. ドクシュツエル)：《この道》《赤とんぼ》

Eup&Piano (武田&久保田)

B. アッペルモント：グリーン・ヒル

Eup & Piano (森内&久保田)

A. デサンクロ：小組曲 ～古典の味わいで～

1. 前奏曲
2. フゲット
3. アリア
4. フィナーレ

Eup & Piano (露木&久保田)

J. デルーカ：美しきコロラド川

H. クラーク：南十字星

S. マンティア：幻想曲《蛍の光》

【成果】 久しぶりに行う観客の前での生の演奏は、スタミナ配分や本番での集中力の維持など、対面で演奏する際の感覚を呼び戻す事が出来た。

10月2日 (日)

第72回八王子市民文化祭 第44回音楽芸術フェスティバル

J:COMホール八王子 14：00開演

ユーフォニアム：露木薫 ピアノ：植田結衣

【趣旨】 八王子市民文化祭の音楽芸術フェスティバル演奏会においてゲストとして出演。ピアノ伴奏でソロを演奏行った。

【内容】 楽器の歴史的背景を含めた話を織り交ぜ、ユーフォニアムの他、アメリカ式バリトンホーン、ダブル・ベル・ユーフォニアムの演奏を行った。

H. クレイ・ワーク：「大きな古時計」変奏曲

山田耕筰：この道～赤とんぼ

J. デルーカ：美しきコロラド川

H. クラーク：南十字星

S. マンティア：ファンタジア「蛍の光」

【成果】 一般市民の方々が多く集まった演奏会においてユーフォニアムという楽器につい

での理解を深め、1900年代初頭に使われていたアメリカ式バリトンホーンやダブル・ベル・ユーフォニアムなど歴史的背景を紹介しながら実際の演奏を楽しんで頂くことが出来た。

10月29日（土）

Meion British Brass & Fanfare Orkest 演奏会

同朋学園名城公園キャンパスホール 18：00開演

【趣旨】 めいおん音楽祭において、英国式金管バンドMeion British Brassと本学では初めての試みとなるFanfare Orkestという演奏形態の演奏会を開催し指揮を担当した。Fanfare Orkestとはベルギー・オランダ・リュクセンブルグなどを中心にヨーロッパ諸国で広く親しまれている吹奏楽器による演奏形態の一つであり、サキソフォンの製作者アドルフ・サククス氏が考案した演奏形態と言われフリーゲルホルンやサキソフォン・セクションがサウンドの中核を担っている。Britishのメンバーを中心にサキソフォン専攻の学生たちの協力の下実現が出来た。

【内容】 第1部 Fanfare Orkest

S. ロエルズ：the Essence of Youth

J.V. ロースト：By the River

P. スパーク：Five States of Change

第2部 British Brass

P. グレアム：Summon the Dragon

M. アーノルド：Fantasy for Brass Band op.114

W. ハイムス：Amazing Grace

C. ウィリアムズ arr. A. モリソン：Sugar Blues

R.V. ウィリアムズ：Overture for Brass Band 『Henry the Fifth』

【成果】

第1部のFanfare Orkestでは金管セクションに加え、ソプラノからバリトン・サククスまでのサキソフォン・セクションが加わることで早い動きの軌道力や高音域においての安定した表現力を得られることが実感された。またBritish Brassと異なり、フレンチホルンも使用される為、金管楽器専攻生すべての楽器で演奏に取り組める事は日本の音楽大学での合奏形態に取り入れやすい事も実感された。中核をなすフリーゲルホルンの本数を確保する事が難しかった点がこの編成での演奏の今後の課題である。今回のFanfare Orkestの形態での演奏会は東海地区では初めての試みではないと思われる。

第2部のBritish BrassではM. アーノルド：Fantasy for Brass Band op.114、R.V. ウィリアムズ：Overture for Brass Band 『Henry the Fifth』など、この形態での演奏の為に作曲された古典的オリジナル作品を取り上げて演奏する事が出来た点が収穫である。

研究活動

Meion British BrassのCDレコーディング

金管バンド コンクール自由曲ライブラリー Vol.12

金管バンドで彩る『オペト祭』(Teeda 出版)

2月5日(土)～6日(日) 成徳館12階ホール

【趣旨】 継続的に行っている英国式金管バンドの研究の一環として、Meion British Brassによる小学校金管バンド コンクール自由曲集 Vol.12のCDレコーディングを行った。

【内容】

宇田川不二夫：野原のキャンパス

広瀬勇人：希望の大地

富士原裕章：ブルー・スカイ・シンフォニー

小田実結子：思い出の街

足立正：鬼の石段

石原勇太郎：金管バンドのためのソナチネ第2番

白藤淳一：ロジックニンゲレイヤー

福田洋介：大樹の三章

阿部勇一：オペト祭

前田恵実：ヴィヴィットワールドへのプロローグ

(第10回全日本小学生金管バンド選手権 課題曲)

石原勇太郎：あの楽器を持っているのはだれ？

(株)ワコーレコードより発売 WACD-0142

【成果】 新型コロナ・ウィルスの影響により急遽参加できなくなった学生もいたが、メンバー全員の協力により、2日間で11曲の収録を無事に終えることが出来た。小学生のコンクール自由曲と言っても、演奏には技術力、集中力、創造力が必要とされる。そのような意味では、本学の学生達にとっては大変に貴重な経験であり、2日間の経験がそれぞれの成長につながる事と確信する。今後も継続して行っていきたいと思う。

マウスピース研究

【趣旨】 マウスピースとは自分と楽器の間に存在し、自分の音質や表現を左右する大事なパーツである。ユーフォニウムで使用されるマウスピースは、伝統的にトロンボーン用のマウスピースが使われることが多かったが、近年様々なユーフォニウム奏者によるマウスピースが製造され選択肢も増えてきた。しかし楽器店の店頭には豊富に揃っていることは無く、その音質の違いを比べてみるのが難しいのが現状である。備品として購入し、自分自身や個々の学生のニーズに本当に合ったマウスピースを見つけるための継続的な研究で

ある。

【内容】

今年度はユーフォニアム用の太管3本とバリトン用の細管1本を購入した。

デニスウィック SM4X これは世界的に活躍しているステイーブン・ミード氏によるトロンボーン用マウスピースの改良型である。

デニスウィックの特徴でもあった薄い本体部分に厚みを持たせ、標準的な丸みとヘビータイプの中間的なウェイトになっているところが最大の特徴と言える。特に BESSON 社製やヤマハ製の楽器との相性が良いようだ。

Willie's USHIGAMI 1、USHIGAMI 2 ウィリーズは山梨県でマウスピースを製造している国内のマウスピースメーカーであり、プロ奏者のシグネチャーモデルを多く手掛けている。製品名になっているのは牛上隆司氏で、国内で活躍する BESSON 社製を使用しているベテランである。USHIGAMI 1、USHIGAMI 2 は彼の理想を実現したマウスピースと言える。

USHIGAMI 1 はリム直径 26.00mm、スロート直径 7.05mm

クリアでワイドなサウンドが特徴と謳っている。

USHIGAMI 2 はリム直径 26.00mm、スロート直径 7.16mm

クリアで、よりフォーカスされた音質と謳っている。

どちらもリム直径は Bach の 4G 相当で、少し大きめなカップを使用する奏者向きと言える。

また、牛上氏自身が使用している Besson 社製の楽器使用者にマッチしやすいと思われる。

ピケットプラス 7S-C (細管) このマウスピースは細管のトロンボーン用に開発されたマウスピースであるが、バリトンにもよく合うようである。特に音の芯を作りやすく、合奏の中でのバリトンの存在感を明確に示せるマウスピースと言える。

【成果】 プロのユーフォニアム奏者によって開発されたマウスピースはこの楽器の音の豊かさを生かせるよう設計されている工夫が感じられる。特にその豊かさはソリストとしての演奏において効果があるようだ。一方、日本のユーフォニアム奏者は主に吹奏楽の中で活躍する場面が多い。ソロ演奏と吹奏楽という演奏形態どちらもバランス良くこの楽器の特性を生かし、アンサンブルにおいても他の楽器と相性が良いマウスピースの形状・材質等を引き続き研究して行きたい。

2022年度 演奏・研究活動報告

中川 朋子

2022年8月25日

CD「中川 朋子オールリスト・ピアノリサイタル」をリリース（2枚組）

発売元：ナミ・レコードCo., Ltd.

〈収録曲目〉

Disc 1

リスト：巡礼の年 第1年「スイス」

F. Liszt: *Années de pèlerinage Première année "Suisse"* S.160

1. ウィリアム・テルの礼拝堂 *La chapelle de Guillaume Tell*
2. ワレンシュタットの湖にて *Au lac de Wallenstadt*
3. パストラール *Pastorale*
4. 泉のほとりで *Au bord d'une source*
5. 嵐 *Orage*
6. オーベルマンの谷 *Vallée d'Obermann*
7. 牧歌 *Églogue*
8. 望郷 *Le mal du pays*
9. ジュネーヴの鐘 *Les cloches du Genève*

Disc2

リスト：ピアノ・ソナタ ロ短調

F. Liszt: *Sonate h-moll* S.178

Lento assai — Allegro energico

Andante sostenuto

Allegro energico — Andante sostenuto — Lento assai

リスト：コンソレーション（慰め）第3番

F. Liszt: *Consolation No.3* S.172

リスト：愛の夢 第3番

F. Liszt: *Liebestraum Nr.3* S.541

今回のCDは「中川朋子ピアノリサイタル(開催日:2021年12月22日、開催場所:名古屋・伏見・電気文化会館 ザ コンサートホール)」をライブ収録したもの。

リサイタル当日の演奏について、興味深く受け入れていただき2022年8月25日、ナミ・レコードCo., Ltd.より、リリースする運びとなった。

リリースにあたり、収録曲に対する私の思いをブックレットの冒頭に書き記した。以下その一文より。

収録曲について

新型コロナウイルスの出現により、2020年を境に世の中の状況は一変した。当初の厳しい制限や制約は年を経るごとに徐々に緩和されてきたものの、現在もお感染への不安は解消されていない。2021年リサイタル当時は、まだ日々の感染者数の増減に日常が大いに左右され、先の見えない閉塞感も漂っていた。

この状況で求められる音楽は何か、何を表現するべきかを模索していた中、リストの巡礼の年 第1年「スイス」の楽譜を手にした。その中の特に「牧歌」の何気ない単純なフレーズに強く心を動かされ、リストの音楽の多様性と魅力を実感した。

リストのピアノ曲については大げさで表面的と評される面もあるが、敬虔な求道者としての精神が内蔵され、リストの人間性と同様に多面的である。その経歴は異彩で、美貌の名ピアニスト、作曲家、教育者、神父などを経て、最終的には音楽界の巨匠と称される。

一方、聖職者でありながらも世俗的で自由奔放、思うがまま生きた人物でもある。

巡礼の年 第1年「スイス」の第1曲、ウィリアム・テルの礼拝堂の冒頭に掲げられた標題「皆のための一人、一人のための皆」や「私の周りのために生きる」との意を込めた第9曲のジュネーヴの鐘からは、博愛主義者としての一面を知る事が出来る。

世界的ピアニストのアルフレッド・ブレンデルは巡礼の年 第1年「スイス」の曲集には「外界の自然と内なる本性が扱われている」更に「リストは文学を通して自然を体験した」とも述べている。

文学との融合によって生み出されたリストの音楽は、スイスの美しい自然へと私を優しく導く。湖面の静けさ、水の煌めき、陽に輝く長閑なアルプスの牧草が幻のように浮かび、ホルンの音やヨーデルの響きも心地良い。現実との対比や激情、理想郷や楽園への切望といったイメージが、付記されたバイロンやシラーの詩によって、私の中でより一層明確なものとなる。

「オーベルマンの谷」では、個人的告白を通して人間の本性が描かれている。陰鬱な内容のセナンケール作の小説「オーベルマン」からの書簡とバイロンの深い苦悩の一節が添えられ「オーベルマンの谷」の絶望的な冒頭を暗示させる。しかし、リストはこの曲の中に孤独、放浪、不安との葛藤など紆余曲折の末に最終的には、ひとすじの光明と悦びを導

き出したと私は理解している。「牧歌」に続き「望郷」によって優雅な理想郷や幻の楽園へと私はいざなわれる。そして最終曲「ジュネーヴの鐘」によってリストの愛に私自身も温かく包み込まれる。

マリー・ダゲ伯爵夫人とのスイス旅行は、言わば世間からの逃避行であり宗教的な巡礼とは、かけ離れているかのように思われる。しかし、リストは16才頃から聖職者を志して以降、求道者としての精神性を持ち続けていた。それは、リスト作品の根底には何かしらの宗教的な包容力が秘められている事からも想像できる、人々の心を癒し、苦悩に寄り添うこの作品は、不安な状況下の今こそ求められている音楽ではないかと私は思う。

リストの「ピアノ・ソナタ ロ短調」に取り組むのは学生時代以来の事であった。取り出した楽譜には多くの先生方によるアドヴァイスの書き込みがなされ、その中にひと際くっきりとハンス・ライグラフ先生の文字が残されていた。リストの自筆譜を片手にその文字を辿りながら読み解いていくと、当時は気付けなかった先生の真意に今更ながら納得し、貴重な発見も多々あった。

リストは75年の生涯で多くの作品を残したが、ソナタと題するものは「ピアノ・ソナタ ロ短調」のみ。この「ソナタ」は一見、幻想曲風でありながらも斬新なスタイルのソナタであり、革新的で円熟したリスト作品の真髄とも評されている。

リストのピアノ曲は、この「ピアノ・ソナタ ロ短調」を含めて難技巧を伴う作品が多い為、卓越したテクニックを駆使する事ばかりに気を取られ、空虚な表現になりがちである。

指導者としてのリストはテクニックについて殆どアドヴァイスはしなかったと言われている。「テクニックは機械的な演奏によってではなく、精神によって培われる」というリストの言葉は、今もピアニストへの価値ある教訓である。「ピアノ・ソナタ ロ短調」においてもリストが求めている音楽は大げさな表現や大音響では勿論ない。ピアノの楽器の特性を最大限に活かし、スケールの大きな音楽に込められた奥深い文学的表現や思想であり、それこそがリストの最大の魅力であると思う。綿密に構築された「ピアノ・ソナタ ロ短調」の、なかでも祈りに満ちた穏やかで静かな旋律は、心が洗われる程に美しい。

(CD「中川朋子オールリスト・ピアノリサイタル」のブックレット冒頭の自筆一文より)

前回の私のCD「プロコフィエフ・ロミオとジュリエット」・ピアノ版のリリースに際して、パッケージのデザインや配置などについては、私の希望するイメージを伝えたのみで、殆ど専門家に委ねて完成となった。更に、西原稔先生に詳細な曲目解説をご執筆いただき、貴重なブックレットとなり誠に有り難く、深く感謝している。

今回リリースしたCDでは収録曲に対する私自身の思いを、リサイタル当時を思い起こしながらブックレットの冒頭に書き記した。CDパッケージの表と裏のデザインは、私が

以前から撮り貯めた写真の中から厳選した2枚をお願いした。商品としてのCDを創り出す上で、パッケージの背に付ける帯のキャッチコピーなどは、短い文言の中で、独自性を如何にアピールするか、言葉選びも中々難しい。パッケージやブックレットの字体、文字配列、色合いなども専門的なアドバイスをいただきながら、熟慮し決定した。

このCDリリースに至るまで貴重なご助言、ご協力下さった関係の皆様にご心より感謝を申し上げたい。

2022年5月、「中川朋子ピアノリサイタル（2021年12月22日開催）」に対して第17回名古屋音楽ペンクラブ賞を受賞した。

2022年8月25日リリースしたCD「中川朋子オールリスト・ピアノリサイタル」については、雑誌「レコード芸術（2022年10月号）」などの誌面にてご好評をいただく事が出来た。思いの外の光栄であり、今後の活動への激励と受け止め、次回リサイタルに向けて研鑽して参りたい。

2022年度 研究活動報告

森 雅史

- 1月12日（水） 学科公開講座 二台ピアノによるオペラ歌唱指導
講師：田中祐子（指揮者） 企画立案ならびに運営
- 1月23日（日） 全国共同制作オペラ「禅～ZEN～」世界初演
作曲：渡辺俊行、会場：金沢歌劇座
オーケストラアンサンブル金沢 出演：伊藤達人、コロンえりか他
マッカーサー元帥役
- 2月6日（日） 全国共同制作オペラ「禅～ZEN～」
作曲：渡辺俊行、会場：金沢歌劇座
オーケストラアンサンブル金沢 出演：伊藤達人、コロンえりか他
マッカーサー元帥役
- 3月25日（金） ゲジム・ミシュケタ氏（バリトン歌手）新国立劇場
『椿姫 ジョルジョ・ジェルモン役』とコロナ禍の国際的なオペラ界の現在とこれからについて意見交換
- 4月18日（月） 東京春音楽祭『トゥーランドット』指揮者モランディ氏と意見交換
ヨーロッパのオペラ界の現在とこれから
- 4月28日（木） 金沢 風と緑の楽都音楽祭 オペラ『滝の白糸』千住明作曲
南京出刃内役 出演：木村綾子、高柳圭ほか
- 4月30日（土） 金沢 風と緑の楽都音楽祭 高岡公演 オペラ『カルメン』
エスカミーリョ役 会場：高岡市生涯学習センターホール
共演：鳥木弥生、城宏憲、石川公美ほか
- 5月1日（日） 金沢 風と緑の楽都音楽祭 能美市公演 オペラ『カルメン』
エスカミーリョ役 会場：能美市根上総合文化会館音楽ホール「タント」
共演：鳥木弥生、城宏憲、石川公美ほか

- 5月25日（水） 『SONGS』 公演
会場：電気文化会館ザ・コンサートホール
名古屋音楽大学声楽教員有志による歌曲のコンサート
- 8月13日（土） 国際芸術祭あいち2022 ジョン・ケージ作曲『ユーロペラⅢ、Ⅳ』
ソリスト歌手として出演。また蓄音機アドヴァイザーとして参加。
会場：愛知県芸術文化センター 小劇場
演出：足立智美
- 8月14日（日） 国際芸術祭あいち2022 ジョン・ケージ作曲『ユーロペラⅢ、Ⅳ』
ソリスト歌手として出演。また蓄音機アドヴァイザーとして参加。
会場：愛知県芸術文化センター 小劇場
演出：足立智美
- 8月28日（日） 名古屋音楽大学声楽コース 学科公開講座 ヴォーカル・アカデミー
『高田智宏（バリトン） マスタークラス』 企画立案・運営
- 8月31日（水） 名古屋音楽大学声楽コース 学科公開講座 ヴォーカル・アカデミー
『森内剛（指揮者・コレペティトゥア） マスタークラス』 企画立案・運営
- 9月3日（土） 1万人の第九 高岡公演 ヴェートーベン作曲『第九交響曲』 バス・ソロ
会場：高岡文化ホール 高岡フィルハーモニー
- 9月4日（日） 1万人の第九 高岡公演 ヴェートーベン作曲『第九交響曲』 バス・ソロ
会場：高岡文化ホール 高岡フィルハーモニー
- 9月5日（月） 名古屋音楽大学声楽コース 学科公開講座 ヴォーカル・アカデミー
『ヴェッセリーナ・カサロヴァ 国際マスタークラス』 企画立案・運営
- 9月9日（金） 名古屋二期会 『フィガロの結婚』 プレ・コンサート
メニコン・Hitomiホール
- 9月24日（土） 名古屋音楽大学 コンツェントゥス・ムジクス・メイオン（C.M.M）
公演『Gloria』 *国際芸術祭あいち2022 舞台芸術公募プログラム公演

団体発起、企画立案・運営、公募申請ならびに合唱での出演
会場：愛知県立劇場コンサートホール

10月15日（土）愛知県立劇場開館30周年記念 名古屋二期会オペラ定期公演
『フィガロの結婚』指揮：牧村邦彦 演出：高岸未朝
フィガロ役（客演） 出演：大山大輔ほか

10月－12月 コンセルヴァトリーオ名古屋二期会にて講座を担当
モーツァルト作曲『コシ・ファン・トゥッテ』を題材に全6回の指導

【総括】

2022年度が一番大きな成果としては、『名古屋音楽大学声楽コース 学科公開講座 ヴォーカル・アカデミー2022』ならびに、オーケストラと合唱による演奏団体 Concentus Musicus Meion (C.M.M) を発足させ、国際芸術祭あいち2022年舞台芸術公募プログラムに採択された公演『Gloria』を成功裏に実施することが出来たことが挙げられる

ヴォーカル・アカデミー2022では、

8/28 カールスルーエ歌劇場所属のバリトン歌手、高田智宏氏マスタークラス

8/31 フランクフルト歌劇場シュトゥディエンライター、森内剛氏マスタークラス

9/3 森谷真理准教授リサイタル

9/5 ヴェッセリーナ・カサロヴァ 国際マスタークラス

以上、4つの企画によって構成されているが、大学教員、職員の多大なる協力をいただき、特に森谷真理准教授のリサイタルとヴェッセリーナ・カサロヴァ女史のマスタークラスは内外から非常に高い関心を集め、多くの集客も実現し、その評価も高いものであった。

またオーケストラと合唱による演奏団体 Concentus Musicus Meion (C.M.M) の発足と命名を実現させ、会場費全額、設備使用料金半額という助成を受けられることから国際芸術祭あいち2022（旧トリエンナーレ）舞台芸術公募プログラムに応募し2019年トリエンナーレに続き採択され、同団体の旗上げ公演『Gloria』を実施するに至った。この公演には、大幸財団にも申請を出し『地域の文化振興助成』として採択・助成を受けるに至っている。公演の内容は素晴らしいものであり、ナゴヤ劇場ジャーナルにおいても非常に高い評価を受けたことを明記しておきたい。

コロナウィルスの影響もある中、全国共同制作オペラへの出演が実現したことは大変貴重な経験となった。愛知出身の作曲家渡辺俊幸氏作曲の全国共同制作オペラ『禅』は、東京二期会や藤原歌劇団を代表する歌手が集う質の高い公演であり、歌手としてそうした環境で邦人作曲家の初演作品に携われたことは、自身の演者としての知識や技能のアップ・

デートの良い機会となった。個人的には名古屋を中心とした舞台本番の機会が増え、特に客演としてタイトルロールで出演した、愛知県立劇場開館30周年記念 名古屋二期会オペラ定期公演『フィガロの結婚』フィガロ役は、伯爵役である大山大輔氏との共演の機会ともなり質の高い公演の実施の貢献できたかと思う。本学声楽コース教員で実施した歌曲によるコンサート『SONGS』ではコーブランドの歌曲を取り上げ、自身の新たな分野でのレパートリー作りや演奏経験に繋げることができたと思う。

また、2度目の採択となる科研費による研究活動は、教育と大学行政に関する業務に追われ滞りがちではあるが、研究に関連する活動としては国際芸術祭あいち2022公演ジョン・ケージ作曲『ユーロペラⅢ・Ⅳ』が挙げられる。科研費研究は音響学の見地から歌声を可視化したシステムを用いた声楽指導の体系化が主としているが、蓄音機による黄金時代の歌手陣の歌声の成分分析も比較研究の題材としたことから、金沢蓄音機博物館館長である八日市屋氏の紹介により、蓄音機アドバイザーとして当初公演に携わっており、最終的には演者として歌唱ソリストとしても参加をするに至っている。

今年度は、学内外で自身の演奏以上に、プロデュース側の立ち位置で公演に携わることも増え、企画が概ね成功に終わっており、特にヴォーカル・アカデミーは来年度から実施開始となる声楽コース新カリキュラムのとも連動しており、本学独自の独創性溢れ、かつ国際基準を目指す声楽指導の象徴となる企画に育てて行ければと思う。

科研費に関する研究エフォートが予定より低くなっていることが改善点であるが、現在の労働環境では研究に時間を割く事は正直に言って非常に厳しい。来年度は、学会や意見交換会へ招聘もされており、少しでもエフォート改善に努めたい。

2022年度 演奏活動報告

森谷 真理

2022年度にソリストとして出演した主だったコンサート

2022年1月1日 高崎芸術劇場

「高崎元旦コンサート」

指揮：大友直人 共 演：山根一仁、務川慧悟

管弦楽：群馬交響楽団

曲 目：歌劇《ラ・ボエーム》より「私が街を歩くと」
喜歌劇《ジュディッタ》より「熱き口づけ」、他

2022年1月3日 東京芸術劇場コンサートホール

「NHKニューイヤーオペラコンサート特別編 それでも、人は歌い続ける！」

指揮：阪哲郎

共 演：石橋栄美、小林厚子、砂川涼子、森麻季、山下牧子、笛田博昭、福井敬、村上敏明、
宮里直樹、大西宇宙、上江隼人、須藤慎吾、妻屋秀和

管弦楽：東京フィルハーモニー交響楽団

曲 目：歌劇《後宮からの逃走》より「どんな拷問が待ち受けていようと」
歌劇《フィデリオ》よりフィナーレ、他

2022年1月8日 東京芸術劇場コンサートホール

「歌劇《人間の声》／劇音楽《アルルの女》」

指揮、構成台本：佐藤正浩

共 演：松重豊、木山廉彬、的場裕太、藤井咲有里、他 女役出演

管弦楽：ザ・オペラ・バンド

2022年1月16日 小山市立文化センター大ホール

「森谷真理ソプラノリサイタル～今、届けたい歌～」

ピアノ：河原忠之

曲 目：C・シューマン作曲「6つの歌」、シューベルト作曲「音楽に寄せて」
R.シューマン作曲「ミルテの花」より数曲、R.シュトラウス作曲「明日の朝」他

2022年1月21日 東京オペラシティ リサイタルホール
「オペラ・ガラ・コンサート～鮮やかに、華やかに。歌声が開くオペラへの扉～」
共 演：山下裕賀、宮里直樹、上江隼人 ピアノ：河原忠之
曲 目：喜歌劇《ジュディッタ》より「熱き口づけ」、歌劇《イル・トロヴァトーレ》より二重唱、歌劇《リゴレット》より四重唱、他

2022年1月22日 所沢ミュージズ アークホール
「ニューイヤー・オペラ・ガラ・コンサート」
共 演：光岡暁恵、伊藤晴、樋口達也、古橋郷平、与那城敬、押川浩士
ピアノ：赤星裕子
曲 目：歌劇《ラ・ボエーム》より四重唱、「私が街を歩くと」他

2022年2月22日 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
「イレブクラシックスVol.4 バード・サンクチュアリ」
ピアノ：山田武彦 案内人：林田直樹
曲 目：M.ラヴェル歌曲集《博物誌》朗読付き、O.メシアン《ハラウイ》より「音節」他

2022年2月25日 観世能楽堂
「ADACHIGAHARA-銀座の地下に鬼が棲む」
共 演：武田宗典(里女／鬼女)、篠崎“まろ”史紀(ヴァイオリン)、金子平(クラリネット)、加藤昌則(作曲) 家田淳(演出)

2022年3月5日 石川県立堂音楽ホール
「交響曲第9番ニ短調op.125 合唱付」
指 揮：鈴木雅明 共 演：池田香織、小堀勇介、大西宇宙
管弦楽：アンサンブル金沢

2022年3月26日 王子ホール
「ゲキジョウシマイ シマイノヘヤシマイ」
共 演：鳥木弥生 ピアノ：江澤隆行
作 品：ドヴォルザーク「モラヴィア二重唱曲集」
カリッシミ「二重唱曲集」
J.C.バッハ「6つのカンツォネッタ」他

2022年4月3日、6日、9日、12日 新国立劇場 オペラパレス

「ばらの騎士」

指揮：サッシャ・ゲッツェル

演出：ジョナサン・ミラー

共演：アンネッテ・ダッシュュ、他 マリアンネ役

管弦楽：東京フィルハーモニー交響楽団

2022年5月1日、6日、15日 ドレスデン ゼンパー劇場

「蝶々夫人」

指揮：ガエタノ・デスピノーザ 演出：宮本亞門 衣装：高田賢三

共演：フレデリック・デ・トマツソ／シュテファン・ポップ、ガブリエーレ・ヴィヴィアーニ、ミカル・ドロシ 他 蝶々夫人役出演

管弦楽：シュターツカペレ・ドレスデン

2022年5月24日 サントリーホール 大ホール

「読売日本交響楽団 第617回定期演奏会」

指揮：上岡敏之

管弦楽：読売日本交響楽団

ボーイソプラノ：TOKYO FM少年合唱団

曲目：歌劇《ヴォツェック》から3つの断章」他

2022年5月27日 トッパンホール

「Viva Verdi! II 中期」

共演：大西宇宙 ピアノ：河原忠之

曲目：歌劇《シチリア島の夕べの祈り》より「アリーゴよ！ああ、心に祈れ」、「ありがとう、愛する友よ」、歌劇《シモン・ボッカネグラ》より「貧しい一人の女に～娘よ、その名を呼ぶだけで」他

2022年6月22日 紀尾井ホール

「森谷真理 ソプラノリサイタル」

ピアノ：河原忠之

曲目：C. シューマン「6つの歌曲」、R. シューマン歌曲集「ミルテの花」op.25より、歌曲集「リーダークライス」op.39より、A. マーラー「静かに漂う初めての開花」、「私の夜をご存知ですか?」、「恍惚」G. マーラー「リュッケルトによる5つの歌」他

2022年7月11日、14日、16日 新国立劇場オペラパレス

「蝶々夫人」

指揮：阪哲郎 演出：栗山民也

共演：城宏憲、近藤圭、但馬由香 他 蝶々夫人役出演

管弦楽：東京フィルハーモニー交響楽団

2022年7月30日 東京芸術劇場コンサートホール

「第150回定期演奏会」

指揮：飯森範親

管弦楽：パシフィックフィルハーモニア東京

共演：大西宇宙

曲目：ツェムリンスキー「抒情交響曲」作品18 他

2022年8月10日 ミューザ川崎シンフォニーホール

「フェスタサマーミューザKAWASAKI 2022日本フィルハーモニー」

指揮：現田茂夫

管弦楽：日本フィルハーモニー

曲目：R.シュトラウス「4つの最後の歌」他

2022年8月17日 水戸芸術館コンサートホールATM

「ちょっとお昼にクラシック 水戸芸術館」

ピアノ：河原忠之

曲目：モーツァルト「静けさが微笑みながら」、「鳥よ、年毎に」、「すみれ」シューベルト「野ばら」、「鱒」、「ガニユメート」、R.シューマン「献呈」、「くるみの木」、「睡蓮の花」、プッチーニ作品 アリア4曲、他

2022年8月20日 サントリーホール大ホール

「東京交響楽団第702回定期演奏会」

指揮：ペトル・ポラルカ

管弦楽：東京交響楽団

曲目：歌劇《ヴォツェック》から3つの断章 他

2022年8月21日 穂の国とよはし芸術劇場PLAT

「三河市民オペラ2023年公演《アンドレア・シェニエ》ガラ・コンサート」

構成・ピアノ：園田隆一郎 共 演：笛田博明、今井俊輔、小笠寺美樹

曲 目：歌劇《蝶々夫人》より「ある晴れた日に」、歌劇《アンドレア・シェニエ》より「母は死に」他

2022年8月28日 ザ・シンフォニーホール

「ザ・シンフォニーホール開館40周年記念Best of Orchestra」

指 揮：原田慶太楼

共 演：大西宇宙

管弦楽：大阪交響楽団

曲 目：バーンスタイン 交響曲第1番「エレミア」、「ウェストサイド・ストーリー」他

2022年9月3日 名城公園キャンパス・ホール

「I Virtuosi 森谷真理ソプラノリサイタル」

ピアノ：江澤隆行

曲 目：C. シューマン「6つの歌曲」、C. ドビュッシー「忘れられた小唄」、V. ダヴィコ「3つの抒情歌」他

2022年10月2日、5日、8日、10日 新国立劇場オペラパレス

「ジュリオ・チェーザレ」

指 揮：リナルド・アレッサンドリーニ 演出・衣装：ロラン・ペリー

共 演：マリアンネ・ベアーテ・キーランド 他 クレオパトラ役出演

管弦楽：東京フィルハーモニー交響楽団

2022年11月9日、11日、13日 日生劇場

「ランメルモールのルチア」

指 揮：柴田真郁

演 出：田尾下哲

共 演：宮下直樹、大沼徹、妻屋秀和、田代真奈美 他 ルチア役出演

管弦楽：読売日本交響楽団

2022年11月18日 サントリーホール ブルーローズ

「至高のベルカント3」

共 演：大隈智佳子、砂川涼子、笛田博昭、宮里直樹、小林啓倫

ピアノ：藤原藍子

司 会：フランコ酒井

曲 目：歌劇《キャンディード》より「着飾って煌びやかに」 他

2022年11月22日 電気文化会館

「ゲキジョウシマイ in 名古屋 初心に帰ろう！～Let's return to the beginning!～」

共 演：鳥木弥生 ピアノ：江澤隆行

曲 目：「イタリア古典歌曲」より、「日本歌曲」、「ドイツ歌曲」

歌劇《コジ・ファン・トゥッテ》より「私はあの黒髪の彼にするわ」

歌劇《イドメネオ》より「オレステとアイアスの苦しみが」 他

2022年11月25日 金沢市役所第二本庁舎エントランスホール

「Music Restaurant ランチタイムコンサート」

共 演：鳥木弥生 ピアノ：江澤隆行

曲 目：歌劇《ノルマ》より「清き女神」、「最後のわずかな時まで」（二重唱） 他

2022年11月26日（土） 金沢市アートホール

「ゲキジョウシマイ in 金沢 初心に帰ろう！～Let's return to the beginning!～」

共 演：鳥木弥生 ピアノ：江澤隆行

曲 目：「イタリア古典歌曲」より、「日本歌曲」、「ドイツ歌曲」

歌劇《コジ・ファン・トゥッテ》より「私はあの黒髪 of 彼にするわ」

歌劇《イドメネオ》より「オレステとアイアスの苦しみが」 他

2022年11月28日 王子ホール

「銀座ぶらっとコンサート #176」

ピアノ：加藤昌則

曲 目：ファリヤ「7つのスペイン民謡」より子守唄／ポーロ、グアスタヴィーノ「バラと柳」、
ブリテン「子守唄のお守り」より子守唄／お守り、ウォルトン「大市長のテーブルのための歌」より韻、歌劇《キャンディード》より「着飾ってきらびやかに」、
歌劇《中国のニクソン》より「私は毛沢東の妻」 他

2022年12月3日 サントリーホール 大ホール

「スーパーソリスト達による秋の特別コンサートVol.3 スペシャル・ガラ・コンサート」

指揮：ロリー・マクドナルド

共演：大西宇宙、榎本大進、日下紗矢子、赤坂智子、鈴木学、ユリアン・シュテッケル、
遠藤真理、ブルース・リウ

管弦楽：東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団

曲目：歌劇《ノルマ》より「清らかな女神」、歌劇《運命の力》より「神よ平和を与えたまえ」他

2022年12月4日 焼津文化会館 大ホール

「オペラ名曲コンサート～森谷真理&村上敏明」

共演：村上敏明 ピアノ：江澤隆行

曲目：歌劇《ノルマ》より「清らかな女神よ」、歌劇《ジャンニ・スキッキ》より「私
のお父さん」、歌劇《運命の力》より「神よ、平和を与え給え」他

2022年12月5日 サントリーホール 大ホール

「第7回オペラ歌手 紅白対抗歌合戦～声魂真剣勝負～」

指揮：石崎真弥奈、ロッセン・ゲルゴフ

共演：大村博美、幸田浩子、砂川涼子、板波利加、盛田麻央、林美智子、加納悦子、
鳥木弥生、笛田博昭、小原啓楼、村上敏明、澤崎一了、青山貴、大西宇宙、大島郁雄、
斉木健司

管弦楽：東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団

曲目：歌劇《コジ・ファン・トゥッテ》より「私はあの黒髪の彼にするわ」他

2022年12月8日 福岡シンフォニーホール

「クラシック・キャラバン2022 華麗なるガラ・コンサート」

指揮：末廣誠

共演：池田香織、加耒徹、宮里直樹、南紫音、笹沼樹、清水和音

管弦楽：スーパー・クラシック・オーケストラ

曲目：歌劇《フィガロの結婚》より「愛の神よ、照覧あれ」他

2022年12月14日（水）愛知県芸術劇場 コンサートホール

「ヴェルディレクイエム」

指揮：山下一史 共演：池田香織、福井敬、黒田博

管弦楽：愛知室内オーケストラ

2022年12月18日 高崎芸術劇場 大劇場

「高崎第九合唱団第49回演奏会」

指揮：角田鋼亮 共 演：鳥木弥生、村上公太、大沼徹

管弦楽：群馬交響楽団

曲 目：ベートーヴェン 交響曲第9番ニ短調 作品125「合唱付」他

2022年12月29日 神奈川県民大ホール

「神奈川県民ホール年末年越しスペシャル ファンタスティック・ガラコンサート2022」

指揮：三ツ橋敬子

管弦楽：神奈川フィルハーモニー管弦楽団

共 演：鳥木弥生、城宏憲、上野水香 他

曲 目：歌劇《蝶々夫人》抜粋、他

2022年12月31日 Bunkamura オーチャードホール

「東急ジルベスターコンサート2022 - 2023」

指揮：鈴木優人 司 会：高橋克典／狩野恵里

管弦楽：東京フィルハーモニー

共 演：服部百音、角野隼人

曲 目：歌劇《セルセ》より「オンブラ・マイ・フ」、歌劇《ラ・ボエーム》より「私が街を歩くと」他

【総括】

2022年度、研究としての演奏活動は、俳優の松重豊氏や、能楽者の武田宗典氏との観世能楽堂での共演を始めとする、クラシック音楽界以外とのコラボレーションや、世界で活躍するピアニスト、ヴァイオリニストなど、ソロ楽器奏者達との共演、言語においてはチェコ語の二重唱曲集など新しい分野への挑戦、オペラ、ドイツ歌曲、イタリア歌曲、日本歌曲を通して取り上げた作品もバロック時代から1980年代作曲の作品までと幅広いものになった。大学では、ヴォーカル・アカデミーや学内マスタークラスなどを共同発案、運営した。今年得られたユニークで貴重な経験を、今後更に、学生達にも還元していきたい。

2022年度 演奏活動報告

湯浅 乃有

〈修士演奏プログラム〉

【日時】2023年1月13日（金）【場所】めいおんホール

【曲目】

G. フォーレ 『レクイエム ニ短調 op.48』 第4曲「ピエ イェス」

A. ドヴォルザーク 『愛の歌 op.83』

1. ああ、僕らの愛は
2. これほど多くの人の心に
3. ある家の周りを
4. 僕は知っている
5. 静かな眠り
6. 小川のほとりで
7. 君の目の甘美な力に
8. おお、愛しい人

F.P. トステイ 『アマランタの四つの歌』

1. 私を放して、私に息をつかせて
2. 暁は光から闇を隔て
3. あなたは空しく祈る
4. 賢者の言葉よ、何を言っているのですか

【題目】修士演奏曲の曲目解説について

G. フォーレ：『レクイエム ニ短調 op.48』 第4曲「ピエ イェス」

フランスの作曲家として知られるガブリエル・ユルバン・フォーレ（1845～1924）。

フォーレの作品の中で1番演奏機会の多い「レクイエム」は、モーツァルトとヴェルディの「レクイエム」と並んで「三大レクイエム」と言われている。

そもそも「レクイエム」とは死者の安息を願うミサ曲であり、家族や祈る会衆の苦しみを癒す使命を持っているが、フォーレ自身はそれ自体の楽しみのために作曲したともいわれている。

フォーレの「レクイエム」の構成は、「レクイエム」には必須であった、死への恐怖感が表現されている「怒りの日（Dies irae）」が省かれており、第7曲「楽園にて（In

paradisum)」が作曲された。当時は「死の恐ろしさが表現されていない」と批判を受けた。しかし、フォーレは「死は私にとってそのように感じられるのであり、それは苦しみというより、むしろ永遠の至福の喜びに満ちた開放感に他ならない」と書いている。第4曲「ピエ イェス」はソプラノの独唱曲で、単純な旋律の中に美しさを兼ね備えている。

A. ドヴォルザーク：『愛の歌 op.83』

「交響曲第9番『新世界より』」や「スラヴ舞曲」で知られるアントニン・ドヴォルザーク(1841～1904)。ブラームスに才能を見いだされ、「スラヴ舞曲」で一躍人気作曲家となった。

当時24歳のドヴォルザークが書いた最初の歌曲集「糸杉」は、詩人で小説家のグスタフ・プレーガー＝モラフスキーによる情緒的で感傷的な18の抒情詩を題材としており、望みは叶わなかったが、恋心を抱いていた相手を想い作曲された。友人の作曲家に献呈されたが、旋律は素朴でピアノ伴奏の扱い方も未熟な作品であったためあまり評価されなかった。後に改定を加えて「4つの歌 op.2」「愛の歌 op.83」の別の歌曲の中にその旋律を取り入れ、編曲されたうちの1つである。曲を書いては破棄していた彼にしては、とてもめずらしくこの作品に対して強い愛着があったことが伺える。とても情緒的で、甘い恋心や愛の悲しみ、胸を締め付けられる美しい旋律で書かれている。

F.P. トスティ：『アマランタの四つの歌』

多くの歌曲を作曲したことで知られるフランチェスコ・パオロ・トスティ(1846～1916)。

母国のイタリア語のみならず、英語やフランス語など数多くの言語で歌曲を作曲した。その中でもガブリエーレ・ダンヌンツィオの詩によるトスティの歌曲は34曲あり、「アマランタの四つの歌」もその中の1つである。

ダンヌンツィオの詩のテーマは生と死であり、「アマランタ」は元々小説のタイトルで、「衰えたりやつれたりしない不滅の存在」や「赤みがかかった褐色の髪を持ち、大理石のような肌、バラのエッセンスの香りを漂わせ、金色に輝くけれど生来の白さが常に透けて見えるような女性」と記し、実在した女性だと言われている。

アマランタという女性がある時はドラマチックに、またある時は悲しい存在として描きだしており、彼女の人生をどのように終えるのかをトスティの繊細な音とともに表現している。

【参考文献】

- E. ヴェイエルモーズ、『ガブリエル・フォーレ 人と作品』、家里和夫訳、音楽之友社、1981年。
井上太郎、『レクイエムの歴史 死と音楽との対話』、河出書房新社、2013年。
クルト・ホルカ、『〈大作曲家〉ドヴォルザーク』、岡本和子訳、音楽之友社、1994年。
フランチェスコ・サンヴィターレ、『トスティ ある人生の歌 —フランチェスコ・パーオロ・トスティの生涯と作品』、森田学訳、東京堂出版、2010年。
トスティ、『アマランタの四つの歌』、森田学解説・対訳、中巻寛子編集、全音楽譜出版社、2019年。

【最後に】

この2年間、大学院という研究機関でたくさんの方の事を学ばせていただきました。修士演奏の曲目は、普段あまり取り上げられることの少ない歌曲に焦点をあて、プログラムを組みました。

今回のプログラムの共通点は「愛」ですが、それぞれの作曲家、詩人によって紡がれる言葉や音楽をこの2年間研究したことを含め、私の声にのせて届けられたら幸いです。

最後に終了までご指導いただきました先生方、ピアニストの植田さん、卒業された先輩方、後輩のみんな、最後に家族にこの場をお借りして感謝申し上げます。

G. フォーレ 『レクイエム 二短調 op.48』

第4曲「ピエ イェス」

慈悲深き、主イエスよ

彼らに安息を与えてください

彼らに安息を

永遠の安息を与えてください

A. ドヴォルザーク 『愛の歌 op.83』

1. ああ、僕らの愛は

ああ、僕らの愛は決して花開かない

焦がれていた幸せのために

そしてもし花開いたとしても

それは決して長く咲いてはくれないだろう。

なぜ涙がこぼれるのだろうか

熱い口づけの中で？

なぜ僕は愛の絶頂にいるのに

不安になるのだろうか 君に抱かれて？

ああ、苦しいのは別れ

まだ希望は消えていない

だが心は震えながら感じるのだろうか

やがて儚く消え去ることを。

2. これほど多くの人の心に

これほど多くの人の心に死がある

ちょうど暗い荒地のように。

心の中には悲しみと苦しみ、それだけしかない。

恋の幻影が狂おしく心の中に入り込み

そして悲しい心は渴き思うのだ

これこそが愛なのだ

そしてその甘い幻想は天国にいるかのよう

死んだ心は再び蘇り、そして歌うのだ

古い物語を！

3. ある家の周りを

今、僕はある家のまわりをさまよう

そこはかつて彼女が暮らしていたところだ。

そして愛の傷口はまだ血を流している

偽りの甘い愛に！

そして悲しげな目で僕は見つめる

僕のもとに君が歩み寄ってくるのを

そして君に向かって僕は腕を広げる

しかし、僕は目に涙が浮かぶだけ。

おお、君はどこにいるのだ

愛しい人は今どこに

なぜ僕の抱擁に飛び込んできてくれないのか？

もはや僕の心の中には

喜びも幸せもないのだろうか？

もう二度と君を

抱きしめることもないのだろうか。

4. 僕は知っている

僕は知っている 胸を高鳴らせながら

君に愛を打ち明けられることを

そして君は熱い思いで

僕の愛を受け入れてくれることを

そして君の目を見つめると、この心地よい夜に

僕は感じる どれほどの天が愛の力を

僕に届けてくれるのか。

すると僕の目は涙で曇り、不意に目を拭う

なぜなら幸せな僕らを

邪悪な運命が立って見つめているのだから！

5. 静かな眠り

静かな眠りについていて大地の上を

明るい五月の夜が広がっていった

そよ風が木々をそっと揺らし

天から静かな力が降りてきたのだ

花々はまどろみ、小川のせせらぎに
不思議な合唱の声がかすかに聞こえる
自然は喜びに浸り、落ち着きのない物音は
すべて静まった

星たちは希望の光のように集まり
大地は天の一部へと変わる
僕の心にはただ沸き立つ苦しみだけが
忍び寄って来る。

6. 小川のほとりで

この森の中、小川のほとりで僕は
ひとり立ち尽くす たったひとり
そして小川のさざ波を
物思いにふけり見つめるのだ

僕は古びた石を見る
その上に波がかかり
石は浮いたり沈んだりして
決して波の下で安らぐことがない。

やがて流れが押し寄せてその石は転がり去る
いつ生命の波は僕をこの世から運び去るのだろう
いつ？
ああ、僕を運び去るのだろうか？

7. 君の目の甘美な力に

君の目の甘美な力のうちに
僕は喜んで、喜んで死んでいこう
僕にとってこの人生が何だろう
もし君の微笑む美しい唇がないのなら
だが僕はためらいなく甘美な死を選ぶ
この愛に、この心からの愛を誇りにして。
ただ生きてみたい。
君の微笑む唇が命を目覚めさせてくれるならば。

8. おお、愛しい人

おお、愛しい人 ただひとり愛する人
僕の心に永遠に生き続ける人よ
僕の想いに君をめぐる
酷い運命が僕らを引き裂こうとも。

おお、僕が白鳥となって歌えたなら
僕は君のもとに飛んで行くだろう
そして最後のため息をついて
息絶えながら僕の心歌うのに。
最後のため息をつきながら。

F.P. トステイ 『アマランタの四つの歌』

1. 私を放して、私に息をつかせて
私を放して、私に息をつかせて、
私を起き上がらせて。血が凍るのを感じる。
私は震えた。
心臓に何だか分からない痛みがつかえている。
ああ、神様、陽の光だわ。陽の光がやって来る。

私がそれを見ませんように。貴方の口を当てて
私のまつ毛の上に、貴方の心臓を私の心臓に。
葉が完全に愛によって血に染まる。
命は去っていく、それが満ち溢れるときに。

私は刺し貫かれて死ぬ、
けれどそれは貴方の剣にではない。
私の胸は空になる、けれど苦痛は伴わない。
これは血ではないの。
ああ、神様、朝露だわ。
暁が私の上でありたけの涙を流している。
2. 暁は光から闇を隔て
暁は光から闇を分け、
私の悦楽を私の希求から分ける。
優しい星々よ、死すべき時が来たのだ。
より神聖な愛が天空からお前たちを一掃する。

熱く燃える瞳たち、もう戻らないお前たち
悲しい星々よ、汚れることなく消えるのだ。
私は死ななければならない。陽の光を見たくない、

私の夢と夜への愛ゆえに。

私を閉じ込めてくれ、夜よ、お前の母なる胸の中に、
淡い光で白む大地がまだ朝露に濡れている間に。
しかし私の血潮からは暁が生まれ
私の短い夢から永遠の太陽が生まれますように。

3. あなたは空しく祈る

あなたは空しく祈り、空しく喘ぎ求め、
打ち砕かれた心を空しく見せている。
空は濡れるのでしょうか
私たちが泣いたからといって。

私たちの苦しみには翼がありません。
虚弱な叫びは空を飛びません。
泣いて祈りなさい。
どんな神が降りてくるのでしょうか
星々の道を通して。

塵灰に身を委ねなさい
そしてその上にうつ伏せで横たわりなさい。
あお向けの母（なる大地）は解き放してくれます
口づけする者のあらゆる罪から。

神のいない黄泉の国で
可能な限り深く眠りなさい。
すべては夢で、すべては忘却なのです。
アスフォデルがこの「世界」の花なのですから。

4. 賢者の言葉よ、何を言っているのですか
賢者の言葉よ、何を言っているのですか。
「野生の風の姉妹である、
軽い魂には相応しい、
飲んだ泉を通り過ぎることが。」

私には分かっています、
空しいこの涙がこんなにも長い影を作る
私のまつ毛をだいなしにしていることを。
おお生命よ、

そして消えかけた恋の松明を消すには
ひと粒の涙でこと足りるのです。

よく分かっています、
不可避な不安（死のあえぎ）の中で
私の乾き切った口もとがくずれることを。
そして息のひと吹きで、おお生命よ、
わずかな私の灰を吹き払うことができます。

あなたは言う、「頭を上げなさい。
優雅に髪をひとつに結びなさい。
そしておまえが摘むバラの上を
『未知』に向かって笑いながら進んで行きなさい。

スフィンクスのような目をした移り気な愛人、
おまえに約束された相手は、
『明日』という名前で、おまえを
より新鮮な花輪で飾ってくれる。」

私を待っている。それは分かっています。
けれど喜びを与えてくれるその人は
もう花輪を持っていません。
その人は糸杉を『愛』に
そしてギンバイカをより大きな存在に与えました。
ギンバイカを『死』に。
私には聞こえる
錯乱した私の頭の上で
それが轟音を立てているのが。
私は恐れない。髪を秘かな結び目で
永遠に私は結った。

生命よ、私は両方の手で
あなたの最後の涙を拭きました。
『明日』という名の愛する人は
無限の闇の中で私を待っています。

対訳：トスティ『アマランタの四つの歌』森田
学解説・対訳、全音楽譜出版社、2019年。
その他対訳、湯浅乃有。